

令和 7 年度活動計画（案）

我が国のエネルギー政策について、令和 7 年に閣議決定された第 7 次エネルギー基本計画において、原子力はエネルギー安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源と位置付けられた。これにより、原子力を最大限に活用する方針となり、原子力発電所の再稼働、運転期間の延長、サプライチェーンの確保、HLLW最終処分地の選定、などに国が積極的に取り組むことになった。東北地方では女川原子力発電所の再稼働が実現し、さらに東通原子力発電所の再稼働や再処理施設の竣工など最重要な課題がある。しかし原子力事業の推進には立地地域の人々のみならず広く国民の一層の理解と支持が欠かせない。将来的にも特に若い世代が、エネルギー問題を認識し原子力の特徴と役割についての理解を深めることが重要である。SNW 東北の今年度の活動内容は以下のように、東北地方を中心に大学・高専の学生諸君との対話活動により原子力の理解促進を図ること、さらに東北地域の原子力事業について理解を深める研修を企画することなどである。

1. 対話活動の企画と実施

（1）前年に引き続き東北地方の学校を中心に対話会を企画する：

青森大学、八戸工業大学、石巻専修大学、東北大学、宮城教育大学、東北学院大学、宮城学院女子大学、福島工業高等専門学校、北海道教育大学函館校、長岡技術科学大学。これらの対話会では必要に応じて日本原子力学会シニアネットワーク連絡会と協力して実施する。

（2）さらに東北地方の他の大学・高専についても検討を進める。また市民との対話会について可能性を検討する。

2. 原子力関連事業所の見学研修の企画と実施

（1）会員および若者の知見を深めるため原子力発電所や原子燃料サイクル施設などの見学を企画する。その際に対話校の学生の参加を働きかける。

（2）原子力文化財団とタイアップし、若者と地層処分を学ぶ研修を企画する。対話校の学生の参加が条件となる。

（3）原子力以外の脱炭素エネルギー源の知見を深めるため、福島県内の水素エネルギー施設などの見学研修を企画する。

3. その他の活動

（1）会員の最新技術情報や知識向上のため、学会、シンポジウム、講演会等への参加を進める。

（2）会員の情報交換と情報発信のためホームページを管理更新する。

以上